

菜祀祭

菜祀祭は本来の祭日の2月13日に行われます。氏子総代や堂年寄り、地元住民が拝殿に集まり菜祀の祭典が始まります。神職の祝詞に続き、玉串を捧げて1年の豊作と繁栄を祈ります。山車が無事に巡行できたことを神々に報告し、神々に安心してお帰りの儀が済むと、蓬菜祀の全ての祭事が終わります。

鏡餅や串餅が堂年寄りに配られ、神と共に酒食をする直会(なおり)が行われて、菜祀の労がねぎらわれます。やがて菜祀祭の後片付けも済んで、岡太神社にも静けさが戻ってくると、栗田部の人々は1月の左義長祭り、2月9日市祭り、2月10日徳日参り、2月11日と13日の蓬菜祀と続いた祭りの高揚から解放され、普段の静かな生活に戻ります。

栗田部の蓬菜祀は、躍動と静寂、神々への祈りと感謝を残して人々の心を再生しているのです。栗田部の伝統と誇りを忘れない限り、蓬菜祀は次の世代に受け継がれていくことでしょう。



◆ 厳粛に執り行われる菜祀祭

蓬菜祀の流れ

前年の秋	— わら集め(わらが不足している年のみ)
前年12月	— まわるコースと途中休憩場所(お宿)打合せ
1月	— 栗の木の伐採(花木見立て)
1月中旬	— 各種協力団体との打合せ会(音頭取り、子供太鼓)
2月初旬の日曜日	— 俵締め、餅つき、まゆ玉付け
2月11日午前中	— 台座の組み立て、山車の飾りつけ
2月11日午後1時	— 岡太神社前にて出発の式典
山車巡行	— 町内曳きまわし(5ヶ所のお宿で休憩)
山車還御	— 神社前にて縁起物の分配
2月13日	— 菜祀祭、山車解体

参考文献

1. 男大迹部志 伊藤百助 昭和6年
2. 郷土史往来 栗塚勝治 昭和30年
3. 蓬菜祀について 刀祢勇太郎 昭和50年
4. 継体天皇と越前 石橋重吉 昭和10年
5. 味真野の継体天皇伝承 笠嶋怜史 平成20年
6. 蓬菜祀 関東山車研究会 平成17年
7. 「歳暦記 副記」、「越前栗田部ライン帳」
8. 今立郡誌 明治42年
9. 岡太神社古文書写、他